

白藍塾オリジナル

2010入試小論文分析&解答のヒント

2010年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・総合政策学部

課題のテーマは介護労働力不足の問題。ただ、今年度の問題は、問1が400字、問2が200字、問3が200字と、例年に比べて字数がかなり少ない。その点で、かえってとまどう人もいるかもしれない。

ただし、複数の資料を見て、それを自分なりに整理した上で答えるという点は、変わっていない。したがって、今回も、まずは膨大な資料をどう処理するかがポイントとなる。

まず問1は、「介護労働者の離職率が高い諸原因とそれらの関係」について図示した上で、それについて説明することが求められている。図は、参考例に挙げられている図の空欄を埋めるくらいのつもりで考えてかまわない。

五つの資料があるが、そのうち問1に関係しているのは最初の三つ。もっとも、資料1（総合政策学部の理念を説明した文章）は、「問題の構造化」について述べている部分が、問1のねらいの説明になっているとは言えるが、解答を考える上ではほとんど意味がない。後回しでかまわない。

資料2で、図・グラフが使われているのは、この学部では久しぶりだが、要はここから「介護労働者の離職率が高い原因」を判断すればいいわけだから、読み取りは難しくない。総合的に言えば、介護労働者は、働きがいがあると思って介護の仕事を選び、実際にやりがいを感じているにもかかわらず、低賃金や労働環境の悪さに不満を感じていることがわかる。また、将来の見込みのなさや社会的評価の低さ、職場でのコミュニケーション不足なども不安要因になっている。

資料3は、資料2を補完する内容。介護現場の抱える問題として、「専門性が低い」「スト

レスがたまる」の二点が挙げられている。「ストレスがたまる」というのは、「人助けをしたい」という理想を抱いて介護の世界に入った人が、一般の民間企業と変わらない介護の現実にあふつかって悩んでいる、ということだ。さらに、介護の世界では精神論が幅を利かせていて、そのことが問題の解決を先延ばしにしている現状を批判した上で、介護の現場も職員を安定的に確保するために労働環境の改善に真剣に取り組む必要があることを主張している。

以上を踏まえて問1を考える必要がある。諸原因の関係をどう考えるかは、それほど難しく考える必要はない。たとえば、離職率の高さの直接の原因は、「低賃金」「労働環境の悪さ」「将来の見込みのなさ」などが挙げられるはずだが、たとえば「社会的評価の低さ」は「低賃金」の一因になっているだろうし、さらに「働きがいを求める傾向」を逆用した「精神論」が「低賃金」「労働環境の悪さ」の改善を遅らせている……などのように、いくらでも関連づけは可能だ。それらを自分なりに整理して、ある程度妥当な関連づけができればよい。

説明の仕方としては、基本型Aを応用して、最初に直接的な原因をいくつかまとめて挙げた上で、その原因の原因がどのように関係しあっているかを具体的に説明すればいいだろう。とはいえ、すべての関係をていねいに説明していると400字では足りないはずなので、主なものだけをわかりやすく説明するといいい。

問2と問3は、短いながら論述問題で、基本型AかBを使って書ける。

問2は、資料4に挙げられている対策が有効かどうかを考える問題。主な離職の原因は一応フォローしているので、有効であるとも言えるし、「社会的評価の低さ」という重要な原因がフォローできていないので、有効ではないとも言える。理由をしっかりと説明できれば、どちらでもかまわない。

問3は、資料5の対策、つまり賃金上げが対策として有効かどうかを考える問題。「賃金上げが介護労働者のモチベーションの向上につながるので有効」とも、「4万円アップではサービス業の平均賃金にも及ばないので有効ではない」「介護労働者は働きがいを求めているので、賃金上げだけでは有効ではない」とも論じることが可能。ただし、もちろん、問4の答えとの整合性を考えることは忘れないでほしい。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>